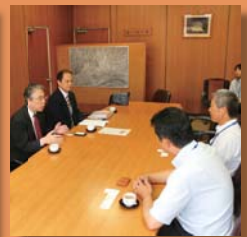


社会

当社は各地の事業拠点において、
地域社会へのさまざまな貢献活動に
積極的に取り組んでいます。



また、認知症の啓発や
医療と介護に役立つ情報を、
インターネットを通じて発信し、
患者さんとその家族を支援しています。



地域活動への参加や患者さんに役立つ情報発信など、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

コミュニティへの参画

患者さんご家族の支援

当社は、患者さんとその家族にお役立ていただける情報を、インターネットを介して発信しています。

● 小野薬品コーポレートサイト

小野薬品コーポレートサイトには「患者さんご家族の皆さまへ」というコンテンツを設け、当社の主要製品を正しくご使用いただくための情報を提供しています。さらに、病気について分かりやすくお伝えすることを目的とした「病気と治療の講義室(病気のお話し)」では、糖尿病や骨粗鬆症、花粉症や気管支喘息など身近にある11の病気について、図やイラストを交えて解説しています。病気の情報だけでなく、症状の具体的な事例、治療および普段心がけるべきことなども合わせて掲載し、患者さんとそのご家族の皆さまにご利用いただける内容になっています。



※詳しくは「患者さんご家族の皆さまへ」で検索

● 認知症医療WEBサイト

2011年7月、日本で初めて貼付タイプのアルツハイマー型認知症治療剤を発売したのを機に、認知症領域で何ができるのかを考えました。そこで、医療機関などの協力を得て研修を実施させていただき、約1千人のMR(医薬情報担当者)全員が参加して、認知症の実態や現場のニーズなど多くのことを学びました。認知症サポーター養成講座も受講し、認知症の人が安心して暮らすために我々が日々に行っていることは何かを、製薬企業の立場だけでなく、患者さんやそのご家族の視点からも考えています。

同7月に、当社のWEBサイト「笑顔とこころでつながる認知症医療」を立ち上げ、各地域の第一線で活躍されている先生方やスタッフの皆さまの声、診療の工夫や地域連携など、あるいは、治療を通じての喜びの笑顔や生の声を取材し、記事として掲載し全国に紹介しています。これまで50万人の方が閲覧されています(2014年3月末)。また、認知啓発ショートムービー「バアちゃんの世界」を制作してサイト上に公開し、認知症啓発を行い、現在まで18万回も再生されています。



※詳しくは「ふれあいつながる作品展」で検索



※「ふれあいつながる作品展」の様子

これらの取り組みが認められ、2012年の「第6回企業ウェブ・グランプリ」(後援:総務省)において、「コンテンツ企画&ライティング(B2B)部門」と「社会貢献・CSR部門」で優秀サイトとして表彰されました。

また、全国の医療施設などでは、絵画や陶芸・ペーパークラフトなどの創作活動を通じて、認知症の進行の予防・改善を図る取り組みが注目されています。その活動を広く世に知らせ、制作者の方やそのご家族の喜び、医療に従事する人たちの充実感を応援したいと、当社は、2013年4月よりWEBサイトで作品を募集し、それを広く紹介する「ふれあいつながる作品展」を始めました。最初の1年間で200施設600作品の応募があり、WEBサイト上で閲覧することができます。



※詳しくは「笑顔とつながる」、「バアちゃんの世界」で検索

●生活習慣病の自己管理サポートアプリ

服薬および通院管理・運動管理などさまざまな側面から、糖尿病をはじめとする生活習慣病の患者さんをサポートすることを目的としたスマートフォン用アプリケーションソフトを無償で提供しています。

生活習慣病の予防と治療のための正しい知識を学ぶためのクイズアプリや食事療法に必要なバランスのいい献立が検索できるレシピのアプリなど、気軽にご利用いただけるツールになっています。



●オンコロジーサイト

2014年8月に、がん領域に特化し、疾患や治療に関する正しい情報をお届けすることを目的として、WEBサイト「ONO ONCOLOGY」を開設しました。医療関係者に対しては、がん領域の学術情報や製品情報に加え、疾患および治療の最新の情報などを掲載しています。

また、患者さんやそのご家族に対しては、がん免疫療法や悪性黒色腫(メラノーマ)の疾患情報などについて紹介し、疾患と正しく向き合っていけるような情報を提供しています。

今後とも、さまざまな立場からがんに向き合う方々にお役立ていただくことを目指し、有用な情報をお届けできる医療情報サイトになるよう、今後一層のコンテンツの充実を図ります。



寄附講座開設

当社は、社会貢献活動の一環として、寄附講座を開設しています。今日の医療は技術の進歩に伴って充実してきているものの、いまだ満たされていない医療ニーズが多く残されています。また、発展途上国における基本的な保健衛生ならびに気候変動の影響によるさまざまな疾病への対策が課題としてあがってきています。さらに、企業や地域社会、ひいては国や国際関係においても広義の「健康」のあり方も課題として浮上ってきています。

当社は、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」を企業理念に定めており、これからもこの理念に基づき、社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

大学	講座名	設置期間	設置目的
九州大学	外科集学的治療学講座	2011.4.1～2014.3.31 (3年間) 2014.4.1～2017.3.31 (継続)	外科治療、放射線治療、薬物療法とそれに伴う支持療法も含めた集学的ながん治療・移植医療およびそれに随伴する免疫異常、感染症に関する教育・基礎研究・臨床研究を行い、外科治療成績の向上を図ることを目的とする。また、これらの研究成果や、必要な疫学調査によって得た情報をもとに、最適な外科治療およびがん支持療法の普及、産学連携した医薬品開発にも取り組む。
慶應義塾大学	先進脊椎髄病治療学 寄附講座Ⅲ	2009.10.1～2012.9.30 (3年間) 2012.10.1～2015.9.30 (継続)	脊椎髄病治療学に関する卒前・卒後教育を行うとともに、基礎的臨床的研究を通じた脊椎髄疾患に対する新たな治療法や関連手術機器の開発を目的とする。
京都大学	免疫ゲノム医学講座	2005.4.1～2010.3.31 (5年間) 2010.4.1～2015.3.31 (継続)	免疫系における遺伝子変異機構とその制御についての基礎研究ならびに免疫系制御因子を用いた各種疾病の新しい治療法の研究を行う。

公益財団法人小野医学研究財団

(P47-48の特集記事参照)

小野医学研究財団は1988年、当社からの寄付を基金として設立され、昨年25周年を迎えました。本財団は、脂質代謝異常の分野に関する研究助成を行うほか、各種事業を通じて、この分野の治療や研究の振興を図り、もって国民の健康と福祉に貢献することを目的としています。

近年の研究の進展により、脂質代謝異常は単に生活習慣病のみならず、神経難病やがんの発症など、極めて広い医学の分野に影響を与えることがわかってきており、国民の健康において脂質研究の重要度はますます増加しています。

財団設立以来、選考委員の先生方による厳正な審査に基づく研究助成および研究奨励助成を毎年行ってきました。25年間での応募総数は2,300件を超え、その中から450件以上の助成を行いました。助成対象者は、財団が開催する研究成果発表会で自ら発表を行っています。

詳細の研究概要は <http://pac.jfc.or.jp/ono/search.php?zid=f-00163> でご覧いただけます。

●第25回研究成果発表会



小野医学研究財団研究助成、研究奨励助成者

企業市民活動

地域社会との関係

地域社会においてコミュニケーションを深めるために、清掃キャンペーンや消防活動に積極的に参加しました。

●生産物流部門の取り組み

フジヤマ工場では、地域環境(外部コミュニケーション)に配慮した活動として、屋外環境整備を2013年度の環境目的に掲げ、2013年の9月と2014年の3月に工場境界ポイント外部隣接ゾーンの清掃を行いました。2014年度においては新たに富士山清掃ボランティアを含め、工場全体で積極的な活動を展開し、清掃を行う予定です。

城東工場では2013年10月に大阪市主催の大阪マラソン“クリーンUP”作戦の行事の一環として、工場の外周、近隣小学校の外周や公園等清掃参加や、1月に実施される東成自衛消防出初式に自衛消防隊として参加し、救護搬送消火訓練を行いました。

また、2013年12月から毎月第2水曜日に障がい者の自立を支援する作業所で手づくりされたパンとクッキーの販売会を行っています。今後も、こうした地域に密着した有益な活動に積極的に参加を予定しています。



● 研究本部の取り組み

水無瀬研究所では、全国名水100選に選ばれている名水を守るため「離宮の水」保存会に加入し、年2回の一斉清掃に参加しました。また、地域住民の防火意識の高揚を目的に11月に行われている島本町防火まつりへの参加や1月の第2日曜日に実施される島本町消防出初式に自衛消防隊として参加し、消火訓練を行いました。

福井研究所では、定期的に研究所の外周付近に捨てられているゴミ回収等の清掃を行い、防火意識の高揚および消化技術向上の一環として毎年実施される自衛消防操法大会に当社自衛消防隊も参加し、消火訓練を実施しました。また、テクノポート福井企業協議会主催の「テクノポート福井夏祭り」に実行委員会の一員として参加し、地域住民の方々との交流を深めています。そのほかに、研究所内の体育館ならびにテニスコートを地域住民の方々に開放し交流の場所として利用していただいています。

筑波研究所では、研究所敷地境界付近に捨てられているゴミを回収し処分するため、定期的に巡回しゴミを集め廃棄しています。



● その他部門の取り組み

2014年5月からは、中学生および高校生の方を対象に、認知症をテーマにした出前授業の取り組みを開始しました。当社が制作した認知症啓発ショートムービー「バアちゃんの世界」の視聴と、専門の講師による講義を通し、認知症を身近なことととらえ、正しい知識を持っていたくことを目的として取り組んでいます。



● 献血への取り組み

当社では、本社をはじめ各研究所、各工場において、日本赤十字社の献血活動に積極的に協力しています。献血活動の推進に積極的に協力したとして、2013年7月5日に福岡で開催された第49回献血運動推進全国大会において厚生労働大臣感謝状の贈呈を受けました。

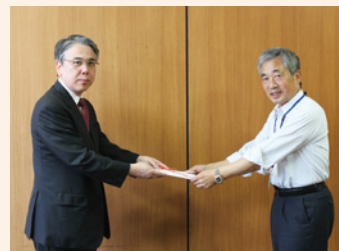


● 島本町への地域貢献

地域と企業が共存し持続的に発展するサステナビリティの観点から、水無瀬研究所が所在する大阪府三島郡島本町の4つの小学校、5つの幼稚園・保育所に6月4日～10日の「歯と口の健康週間」にあわせて「虫歯の無い世界へ」を実現するために少しでもお手伝いできればとの想いを込めて、当社の関係会社(株)ビーブランド・メディコーデンタル社製品である歯磨きセット2,700セット、歯ブラシ400本を寄贈しました。

2014年6月4日に、島本町役場にて寄贈品の目録贈呈式が執り行われました。

島本町と当社の持続的な発展のためにこれからもこの取り組みを継続していきます。



● 間伐材を用いた販促資材の利用

当社では、森林保護において非常に重要な「間伐」という作業から産生される間伐材を用いたノベルティグッズを営業活動の販促資材の一部に使用することで間接的に環境保全に貢献しています。

*間伐材…森林の成長過程で密集化する立木を間引く間伐の過程で発生する木材



● 海外現地法人での取り組み

【韓国小野薬品工業株式会社】

当社は、2013年12月には韓国ソウル特別市に現地法人「韓国小野薬品工業株式会社(以下:韓国小野)」を設立しましたが、以前から提携パートナーへの販売支援活動を行っており、末梢循環障害治療剤「オパルモン錠」などを販売しています。

韓国では数字の“5”を「おー」、「8」を「ぱる」と発音することから、韓国小野では5月8日を「オパルモンDay」とし、その日を含む一週間を「オパルモンWeek」と定めて、社会貢献活動に取り組んでいます。

その活動の一環として、毎年5月8日には、末梢循環障害が原因で起こる腰部脊柱管狭窄症を念頭に、5kmウォークを実施しています。腰部脊柱管狭窄症の症状の一つである間欠性跛行*にちなんで、“楽しく歩けることがどれだけ患者さんにとって福音になるか”を意識することを目的としており、韓国小野の社員および現地代理店である東亜ST有志の約150名が参加して、ソウル近郊の清溪川(チョングチョン)川沿いを歩くという取り組みです。

また、この会に参加した有志からの募金により、東大門区社会福祉協議会に車いすを贈呈しました。この活動は、韓国のインターネットメディアでも公表されました。

*間欠性跛行…しばらく歩くと足に痛みやしびれを生じ、少し休むとまた歩けるようになる症状

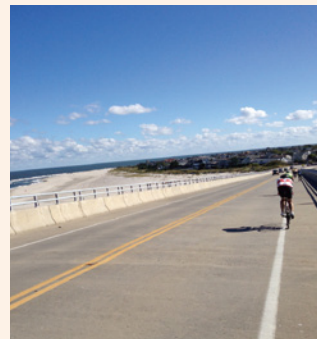


【ONO Pharma USA, Inc.】

当社の米国現地法人であるONO Pharma USA, Inc.では、2011年から全米多発性硬化症協会(National MS Society)主催の自転車レースに参加しています。

これは、米国の製薬企業、医療機器メーカー、病院関係者、一般の自転車愛好家など約9,000人が参加する大規模な取り組みで、自転車レースを通して各参加企業などから募った寄付金は、多発性硬化症の治療および研究に役立てられます。

これまでの参加回数は3回ですが、今後も継続的にこの自転車レースに参加し、製薬企業としての社会貢献活動の一環として、多発性硬化症治療の一助になる活動に取り組めます。



● 活動目標と実績

中期的目標 (2013年～2017年)	2013年度計画	2013年度結果	評価	2014年度活動目標	2014年度活動計画
●企業市民として積極的なコミュニティへの参画	●地域貢献活動の推進 ●医療者への学術支援活動継続	●本社他各事業所にて清掃活動、島本町防火まつり、テクノポート福井夏祭りへの継続参加 ●大学への寄附口座開設で学術支援活動継続	○ ○	●地域貢献活動の推進 ●医療者への学術支援活動継続 ●患者さん、患者団体への貢献活動の推進	●各事業所におけるボランティア活動(地域貢献、医療団体主催の催しへの参加) ●寄附講座開設および継続 ●患者団体主催の講演会などの支援
●患者さんご家族への支援	●疾患啓蒙/患者支援活動	●ONOメディカルナビや「笑顔とこころでつながる認知症医療」など部分的に充実 ●認知症Web月間1500人訪問 ●ふれあい作品展2013年度4回実施(延べ参加施設150、作品数590) ●プリストルマイヤーズ スクイブ社およびアストラゼネカ社との協業による患者用情報配信	△ ○ ○ ○	●患者さんと家族の立場に立った情報の提供	●WEBによる医療情報の提供 ●認知症啓発WEB「笑顔と心でつながる認知症医療」 ●認知症作品展「ふれあいつながる作品展」 ●動画配信「バアちゃんの世界」 ●リウマチtea room ●患者用アプリ「Welby」 ●オンコロジーサイト開設

評価基準 ○:達成 △:ある程度達成 ×:未達

小野医学研究財団25年の歴史

当財団は、設立以来25年間、一貫して脂質代謝分野の研究助成事業を行うことで、この分野の治療と研究の振興を願ってきました。

財団設立の経緯

本財団は、出捐会社である小野薬品工業株式会社の株式会社設立40周年を記念して、1988年11月に厚生大臣の許可を受け、財団法人 小野医学研究財団(2011年4月1日より公益財団法人 小野医学研究財団)として設立されました。

小野薬品がプロスタグランジンの研究開発を開始する際、ご助言をいただいた早石 修先生(現・大阪バイオサイエンス研究所 理事長)を本財団の会長とし、当時の小野薬品 佐野社長を理事長として、14名の設立発起人のもと、脂質代謝分野に特化した財団の活動がスタートしました。

わが国の平均寿命の伸長は目覚ましく、財団設立当時には既に世界の最高水準にありましたが、すべての国民が健康で活動的な生活を送っているわけではなく、例えば65才以上の老人の傷病人数は56%にも達していました。

その中でも、脂質代謝異常によると考えられる疾患がかなりの部分を占めていましたが、成人病と脂質代謝についての研究は、主に動脈硬化と血清コレステロールの關係に焦点をあてていました。しかし、生化学的研究の進歩は脂質代謝に関する知見と分析精度の飛躍的な向上をもたらしました。それらにより脂質代謝異常の病態生理の解明が進むにつれ、

脂質代謝異常は単に動脈硬化だけでなく、成人病の代表疾患とされる糖尿病、心筋梗塞、肝臓病、腎臓疾患等へも深い関わりを有することが明らかになりました。



早石 会長

佐野 初代理事長

そのため、脂質代謝異常に伴う諸疾患の病態生理やメカニズム解明の研究と、その成果として得られる創造性の高い治療法の開発は、医療内容の向上として国民に計り知れない恩恵を与えるものです。

このような観点から、医療現場に密着した脂質代謝分野における優秀な研究をさらに推進し、積極的に医療活動に資するため、権威ある学者の協力を得て、この分野の研究助成などを行うとともに、研究成果については研究成果発表会で報告し、情報の収集並びに知識の普及啓発することを目的として本財団が設立されました。

研究助成事業

小野医学研究財団設立趣意書に基づいて定められた寄付行為(2011年4月から定款)に則り、脂質代謝分野に関する研究への助成を財団設立以来現在に至るまで継続して実施しています。

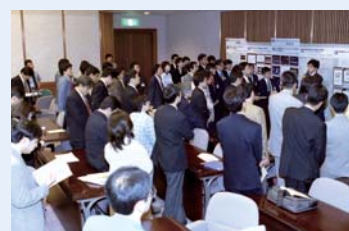
研究助成は1件につき200万円を毎年10件、これに加えて1992年からは、40歳以下の先生方への研究奨励助成として1件につき100万円を毎年10件助成しています。

研究成果発表会

助成した年の翌々年に開催する研究成果発表会において、申請時の研究計画に基づき、助成者ご本人が1年間の研究成果を発表されます。研究成果発表会は第1回(1990年)から第25回(2014年)まで25年間継続して実施され、毎年100名を超す先生方に出席いただいています。



第25回研究成果発表会(2014年6月)



第10回研究奨励助成ポスター会場(2004年6月)



選考委員会

脂質代謝分野で、定款に合致した創造的かつ先駆的研究を支援するという財団の高い理想を実現するためには、助成候補者を選出する選考委員会の役割が極めて重要です。選考委員は高度な専門性と幅広い視点が求められるため、脂質代謝分野の造詣の深い先生方に、原則として任期4年をお願いしています。

選考委員長は、選考委員の中から理事会が選出します。助成者の選出は、7名の選考委員が研究助成および研究奨励助成

課題すべてを査読し、選考委員会において「脂質代謝分野に関する研究の発展にいかに関与できる内容であるかどうか」に重点を置いた議論が行われます。新規性、独創性、継続性、実現性などを考慮したうえで、可能な限り公平な審査を心掛けています。

助成対象者は選考委員会での推薦のもとに最終的に理事会で審議決定されますが、承認後に可否を申請者本人と推薦者に通達しています。

情報公開

理事会で承認された助成者と助成内容は財団のホームページで公開します。過去の助成者すべての報告内容(概要)は、公益財団法人助成財団センターの採択課題データベース

を利用して本財団ホームページ上に情報開示しています。
(<http://www.ono.co.jp/jp/zaidan/>)

新公益財団法人への移行

公益法人制度改革により、2011年に内閣府より設立の認可を受けて公益財団法人へ移行し、定款に定められた脂質代謝分野の事業を新たに開始しました。新公益財団法人移行後は

ガバナンス(内部統治)の規定が強化され、理事会・評議員会は法定の機関として定義づけられました。法人自らが責任もって自主的・自立的に運営することが求められるようになりました。

設立25周年記念事業

2013年度には設立25周年を記念して、本財団で設立時からご尽力いただいている先生方や、過去本財団で助成され、その後脂質代謝分野をリードされている先生方を中心に25周年記念講演会が開催されました。

同年、世界の脂質分野で活躍されている5名の先生方による25周年記念座談会が開催されました。座談会では「脂質代謝研究の変遷と今後への期待」というテーマを掲げ、脂質研究に踏み出された頃の苦労話をはじめとして、小野薬品との共同研究の思い出や、当財団が行ってきた助成事業との関わり、財団の今後のあり方などについて自由闊達に話し合っていました。

25周年記念講演会と25周年記念座談会の記録を中心として、2014年3月には25周年記念誌を発刊しました。記念

誌では、長年財団運営にご尽力をいただいている理事、評議員、選考委員長、過去に本財団の助成を受けられその後も世界的にご活躍されている先生方からの寄稿もいただきました。

この25年間、地道に続けてきた助成事業ですが、若い研究者の方への助成は本当に意義深いものであったと思います。設立25周年を機に今後さらに公平で、開かれた公益財団法人として、国民の健康と福祉の向上への貢献が期待される医学・薬学研究への助成を、引き続き行っていきたいと考えています。

